



環境学習施設の つくり方

—地域に多面的価値を創出する施設—

市民目線の運営がキラリ

浜松市西部清掃工場環境啓発施設
「えこはま」



今回は、浜松市西部清掃工場管理棟にある環境啓発施設「えこはま」取材しました。浜松市西部清掃工場は、2009年2月に開館した施設です。隣接地には、古橋廣之進記念浜松市総合水泳場が整備され、ごみを燃やしたときに発生する熱や蒸気を効率的に利用し温水を作っています。

清掃工場及び水泳場の施設運営を

担うのは、浜松グリーンウエーブ(株)です。えこはままで行われている展示や体験プログラムなどの環境啓発業務については、清掃工場運営会社からNPO法人エコライフはままつ(以下、エコライフはままつ)に委託されています。

お話を伺ったのは、中心となって運営に取り組んできた理事兼事務局長の高根美保さんです。

●市民主体の運営組織の設立と市民目線の取り組み

エコライフはままつは、市民が主体となった運営のための組織です。浜松市西部清掃工場の整備にあたり、施設内に環境啓発拠点が作られる方針が示されたことをきっかけに、当時、市内で活動をしていた「浜松市ごみ減量やらまい会」という任意団体が、浜松市内で活動をしていた環境団体や市民などの参加を得て、NPO法人エコライフはままつを組織しました。

エコライフはままつは、地球環境にやさしいエコロジカルライフとは何かについて真摯に追及・学習し市民に広めていくことを目標に掲げています。二つの取り組みをご紹介します。

●使用済み紙容器リサイクル

雑がみとしてリサイクルに適さないため焼却処分される防水加工されたアイスクリームなどの食品紙容器のリサイクルに、分別回収事業実証実験として2021年4月から1年間にわたって取り組んだもので、現在は2年目に突入しています。主催は日本製紙(株)、共催として浜松グリーンウエーブ、後援が浜松市、そして企画運営として、えこはまで市民の窓口を務めていたのが、エコライフはままつです。さらには、常葉大学健康プロデュース学部健康栄養学科とも連携し、大学構内での回収も行われました。高根さんと日本製紙が紙コップのリサイクルについて話をしたことをきっかけに、焼却処理されている紙製の食品容器を何とかしてリサイクルできないものかという市民のニーズと新たな資源化に取り組みたいという企業の思いをマッチングさせることができたのは、高根さんの行動力とごみを減らしていこうという強い思いがあったからではないでしょうか。

さらに、SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」の視点からも注目されています。市民に紙のリサイクルマークを知ってもらいたいため



浜松市西部清掃工場外観

機会にもなっています。2年目を迎え、総回収量は360・8kgとなりました(2022年7月現在)。今後の展開が楽しみです。

●もったいない市

次に紹介するのは、環境省令和元年度環境教育体験活動優良事例となった「もったいない市」です。

家庭で不用となった衣類(男女・子ども別)、本、おもちゃを持ち込んでいただき、欲しい人が持ち帰るというスタイルです。

現在はコロナ渦のため、持ち込み



紙容器回収の案内リーフレット

●「ごみは進化系でもしろい！」熱意が支えるえこはまの運営
えこはまでは、紙容器リサイクル

運営には、えこはまスタッフだけでなく、浜松市市民協働センターが主催するボランティア体験講座「ボランティアアクエスト」の受講生や浜松市立東部中学校社会貢献部部員の皆さんが関わっています。先輩ボランティアは新人に、きめ細かい運営とリユースマインドを継承していきます。もったいない市は、2022

年9月には57回目となり、確実に市民のリユース行動の広がりに貢献しています。

日と持ち帰り日を分け、完全予約制で開催されています。スタッフが一点一点状態を確認し、サイズ別、季節別に保管するなど、つぎの人が使えることを意識したきめの細かい運営を行っています。



分類され保管されているリユース品

やもったいない市のほか、「生ごみ減量セミナー」や「環境自然学習」などの毎月のエコ講座や展示企画等を行うほか、工場見学の案内も実施しています。運営に携わるスタッフは総勢7人で、うち6人は工場見学の案内を担当し、高根さんが経理などの事務、事業の提案、計画作成から実施、環境に関する情報の収集やデータの蓄積、発信などの仕事を担当しています。一人で何役も担うスーパーウーマンが、何故ごみの仕事に情熱を傾けるようになったきっかけを伺いました。



高根さんを挟んで本研究部会からエール！

20年ほど前、高根さんは、家族の転居先に合わせて各地を回るなか、ふと自分の出したごみが最終的にどこに行くのか気になり、パッカー車を追跡しました。その体験がごみへの興味関心を生み、さらにその後、想いのある人や活動との出会いによって、行政施策や時代によって変化のごみ事情のおもしろさに、どんどんはまっていったそうです。変化のごみ事情と、与えられたミッションを徹底的にやっていくご自身の活動とを重ね「ごみは進化系でもしろい！」と語られました。

■施設概要
「えこはま」

【施設名称】 浜松市西部清掃工場環境啓発施設「えこはま」
 【開館時間】 9:00～16:00
 【休館日】 月曜日（月曜日が祝日の場合は開館）
 【料金】 入場無料 ※施設見学には申し込みが必要

●連絡先●
環境学習施設研究部会

「環境学習施設研究部会」で検索すると、(一社)廃棄物資源循環学会環境学習施設研究部会のページがでてきます。同部会がfacebookの「環境学習施設を考える会」も運営しています。

浜松市西部清掃工場は、2029年の稼働を目指した更新計画が進められています。
市民の目線で市民の声に応えながら、行政、企業など多様な主体との協働により実現したキラリと輝く環境啓発への取り組みが今後も継続し、持続可能な社会の実現につながることを応援していきたいと思えます。
(環境学習施設研究部会) W